

科目名称：	乳児保育Ⅱ	
担当者名：	竹田 亜裕美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
1. 乳児保育1を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得し保育士となる自覚をもつ。 2. 乳児の生活と保育について講義と演習により具体的に学ぶ。 3. 事例検討やグループ討議により学びを深める。 4. プレゼンテーションなどを行い能動的に学ぶ。 5. 乳児保育をするために必要な教材研究を行い、実際にそれを活用した保育実践力をつける。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 乳児保育Ⅰでの学習を基礎に、0・1・2歳児の保育を担当する保育者として求められる知識や技術の理解を深める。 2. 専門家としての資質をより高めることを目標とする。 3. 乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。 4. 広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら保育士の役割について事例をもとに具体的に理解する。 5. 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	.
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	.
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	.

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)			60	40	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 保育士	《経験年数1》 25年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	授業内容を理解し、乳児保育に意欲を抱いている。	乳児保育者として望ましい対応を理解している。	乳児保育者としての対応に重要性を理解している。	乳児保育者としての重要性が何かを理解できない。
授業態度	授業の内容に興味関心を抱き、意欲的に取り組んでいる。	授業の内容に興味関心を抱き、課題をこなしている。	授業での課題をこなしている。	授業に興味関心を抱けない。
自身の考察	授業をふり返り、自分に引き付けて捉え、自分の考えを導き出している。	授業をふり返り、自分に引き付けて捉えることができる。	授業をふり返り、自分の思いを書くことができている。	授業をふり返り、内容の報告に留まっている。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 乳児保育の基本：子どもと保育士等との関係の重要性	自らの理想の保育者像を言葉で述べられるようにしておく	30分
第2回 乳児保育の基本：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについての理解をノートにまとめておく	30分
第3回 乳児保育の基本：子どもの主体性と尊重の自己の育ち	子どもの主体性と尊重の自己の育ちについての理解をノートにまとめておく	30分
第4回 乳児保育の基本：子どもの体験と学びの芽生え	指定された遊びからどのような学びが芽生えるのかを調べておく	30分
第5回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際：子どもの一日の生活の流れと保育の環境	子どもの一日の生活の流れと保育の環境についての理解をノートにまとめておく	30分
第6回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際：子どもの生活や遊びを支える環境の構成	子どもの生活や遊びを支える環境の構成についての理解をノートにまとめておく	30分
第7回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際：3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際についての理解をノートにまとめておく	30分
第8回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際：3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際についての理解をノートにまとめておく	30分
第9回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際：子ども同士の関わりとその援助の実際	子ども同士の関わりとその援助の実際についての理解をノートにまとめておく	30分
第10回 乳児保育における配慮の実際：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮についての理解をノートにまとめておく	30分
第11回 乳児保育における配慮の実際：集団生活での生活における配慮	集団生活での生活における配慮についてを自らの実習記録から抜き出しておく	30分
第12回 乳児保育における配慮の実際：環境の変化や移行に対する配慮	環境の変化や移行に対する配慮についてを自らの実習記録から抜き出しておく	30分
第13回 乳児保育における計画の実際：長期的な指導計画と短期的な指導計画	実習時の計画の作成にあたっての疑問や気づきを抜き出しておく	30分
第14回 乳児保育における計画の実際：個別的な指導計画と集団の指導計画	実習時の計画の作成にあたっての疑問や気づきを抜き出しておく	30分
第15回 乳児保育における実践のまとめ(Q&A)	これまでの授業内容を見返しておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的態度 40% 提出物 60%

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントでフィードバックする。
最終課題は、希望者には返却する

教科書・参考書

「はじめて学ぶ乳児保育」第二版 同文書院
「乳児の発達と保育～遊びと育児」 エイデル研究所